

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	24176
課題名	絨毛膜羊膜間の剥離所見の研究
研究期間	西暦 2025 年 3 月 3 日（実施許可日） ～ 2030 年 5 月 1 日
研究の対象	2014 年 1 月 1 日～2024 年 1 月 1 日に当院で妊娠・分娩管理を受けた方であり、胎児消化管閉鎖または児の染色体疾患がみられた方。
利用する試料・情報の種類	■診療情報 児の他覚的所見（胎児超音波所見、胎児心拍モニタリング所見、羊水または児血液の染色体所見）、分娩前の母体自覚症状（子宮収縮、破水、性器出血、羊水過多の有無等）、分娩の所見（週数、分娩方式、羊水の性状、アプガースコア）、胎盤と児の所見（児の合併症、臍帯と胎盤の病理学的所見等） ☐手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） ☐血液 ☐その他（ ） □利用予定日（実施許可日から一ヵ月後）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	胎児超音波検査で絨毛膜羊膜間の剥離所見は、胎児染色体疾患や羊水穿刺後に見られることがあり、早産や破水と関連しているとも言われています。胎児消化管閉鎖症例で見られた報告がありますが、胎児消化管閉鎖の中で頻度が多く見られるものかはわかっていません。また胎児染色体疾患での頻度や予後もわかっていません。胎児消化管閉鎖・胎児染色体疾患で絨毛膜羊膜間の剥離がどれくらいの割合でみられるのか、早産など分娩の異常が多いのか調べます。
研究の方法	カルテの情報を集めて、胎児超音波所見で絨毛膜羊膜の剥離所見の有無と、分娩の異常の有無について統計を用いて明らかにします。
その他	特記事項ありません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 旭川市緑が丘 2 条 1 丁目旭川医科大学産婦人科学講座 横浜祐子 電話 0166-68-2562

	研究責任者 横浜祐子
--	------------